

3-2-3 中軽井沢

1) 計画条件および課題の整理

中軽井沢地区における計画条件および課題について以下に示す。

- 中軽井沢には、軽井沢町の全住民の4分の1が集中しており、生活の拠点としての未来像を描く必要がある。
- 中軽井沢は、旧沓掛宿を中心に発展してきた地区である。大正期の写真から街道には水路が流れていたことが分かり、その名残であると考えられる沓掛用水が、現在も住宅地内を通過して、湯川に放流されている。
- 駅と図書館を併設し、浅間石などの地場材を用いてデザインされた「くっかけテラス」が新たな賑わいの場所になりつつある。
- 駅前の商店街は必ずしも活気あふれる状態ではないが、少しずつ新しい店舗も増えている。商店街をどう活性化するかが課題である。
- 湯川の左岸、国道18号沿いには、町役場や長倉神社、公園、病院、老人福祉センターといった公共施設が集中している。
- 地区を南北に流れる湯川は、住宅地に近接する川としては珍しく自然河川の雰囲気をよく残しており、地区の貴重な資源である。役場より上流部には観光客で賑わう星野リゾートエリアがあり、下流部の河川敷一帯は湯川ふるさと公園に指定されている。



旧沓掛宿(大正期)



中軽井沢駅前通り



くっかけテラス



役場前、湯川左岸の敷地



長倉神社



沓掛用水



中軽井沢地区地形図（出典：国土地理院）

2) エリアデザインの基本方針

中軽井沢地区のエリアデザインのコンセプト、基本方針を、グランドデザイン冊子より抜粋する。

生活拠点としての中軽井沢の重み

蘇るふるさと、歩け！沓掛、浅間が見てる

国の人口推計によると、2040年の軽井沢町の人口は現在のおよそ2万人から4千人程度の減少と予想されています。国民総人口が1億人余りまで落ち込む予想を前提とすれば、まだまだ元気のある自治体グループに入っていますが、入込客の動向いかんでは油断できません。

住民の4分の1が集中する中軽井沢エリアは生活者ゾーンとしての拠点性が顕著であり、他のエリアとは異なる生き残りの手法をさぐる必要がでてきます。役場、病院、学校、駅と図書館、郵便局、金融機関、商工会館や各種商業施設、日常的飲食店などなど…。

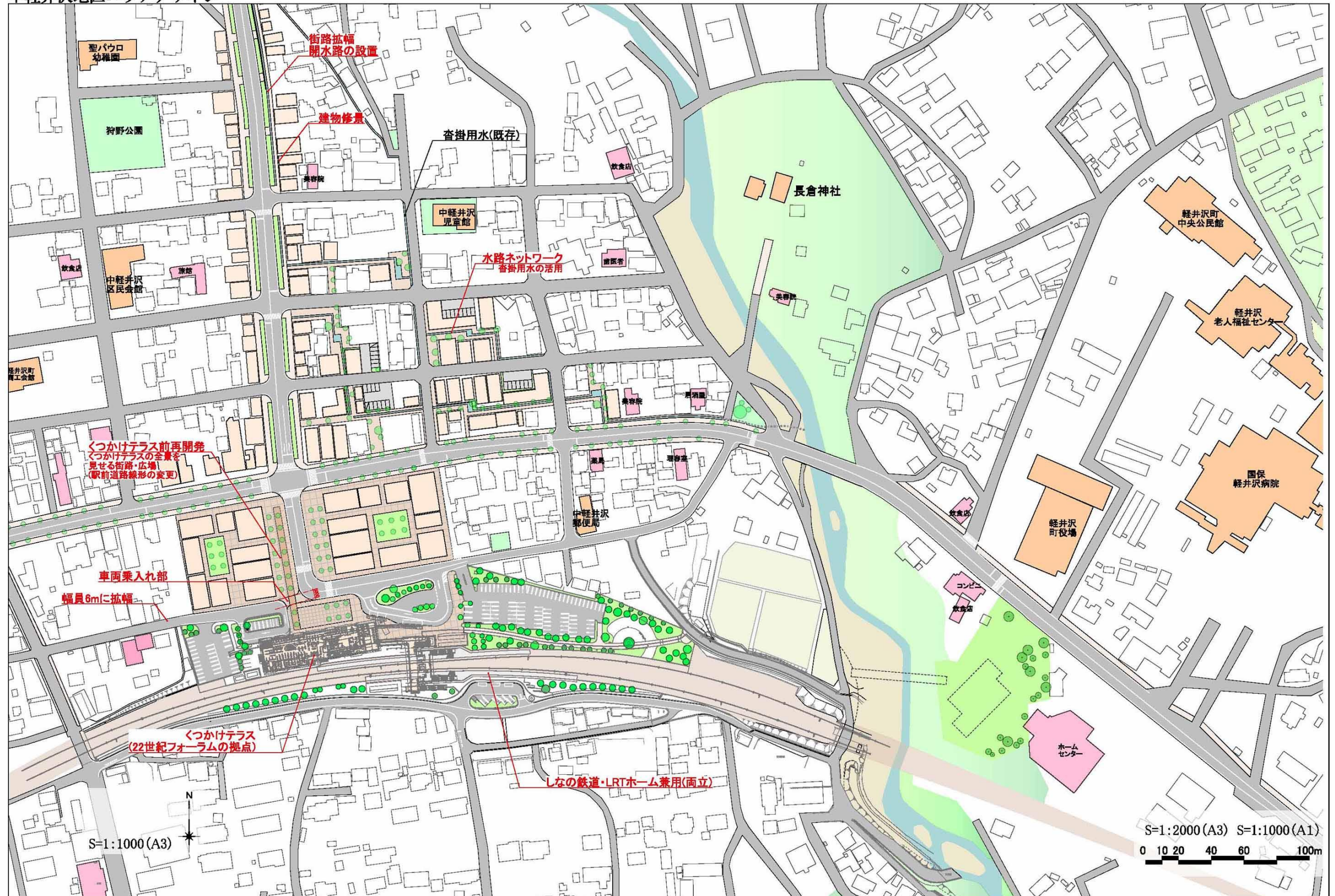
第1テーマの高原保養都市とは全く別の顔の地方都市の中心街、コンパクトシティのモデルでもあります。浅間山と湯川を拠り所にした生活者のための歩行・自転車生活圏をどうデザインするか。これを皆で勉強する未来研究センターとしての「22世紀風土フォーラム」のテーマとして考察してみてもはどうでしょうか。

国道より北の街区を流れている沓掛用水は、未来の中軽井沢を決める大事な資源です。網の目状にながれる遣り水に寄りそった水網広場は、ふるさと沓掛の新しい顔になります。

3) エリアデザインの内容とイメージ

- ・ 駅前通りの歩道幅員を拡幅することで中軽井沢の象徴である「くっかけテラス」のファサードが国道交差点より一望できる形が可能となる。
- ・ くっかけテラス内に「22世紀風土フォーラム」の拠点を置く。
- ・ 駅舎と平行して走る駅舎前の道路を、駅前通りに直結することで、駅前の歩行者空間を広く確保し、かつ駅から駅前の交差点までを、歩行者広場に仕立て上げる。駅前広場は、マーケットの開催場としての利用も可能であり、商店街を活気づける起爆剤にもなりえる。
- ・ 上述したように、駅前の交差点をT字からL字へと変更するが、駅前の東西方向の車両動線を損なわないよう、東西を接続する車両乗り入れ部を設ける。
- ・ 駅前から伸びる県道を拡幅し、芝生の緑地帯、自転車走行レーンを導入する。これにより、駅と北部に位置するハルニレテラスの連携を強化する。街路灯にはフラワーバケット等を吊るすバナナを設置する。
- ・ くっかけテラスに直行する県道沿道の建物は、くっかけテラスを参照し、地場材を使用しながら伝統様式の中にモダンなセンスで仕上げるものとする。
- ・ 沓掛用水を活用し、宅地の合間を縫う水路網を築く。水路を活かした庭、水場を囲んだ溜まり場、テラスなどを設け、歩いて楽しめる住宅地・商店街を形成する。また適宜、駐車場を分散配置し利用しやすい商業・住宅地エリアを形成する。

中軽井沢地区エリアデザイン



中軽井沢地区エリアデザイン



スケッチ① くつかけテラスを活かしたまちづくり



スケッチ②くつかけのまち並みの展開



スケッチ③ 駅周辺街区の活性化



中軽井沢地区模型① 駅前通り俯瞰



中軽井沢地区模型② 駅前通り俯瞰



中軽井沢地区模型③ 駅周辺俯瞰



中軽井沢地区模型④ 駅前通り俯瞰



中軽井沢地区模型⑤ 駅周辺街区整備イメージ



中軽井沢地区模型⑥ 北西より俯瞰



中軽井沢地区模型⑦ 南東より俯瞰（国道側より望む）



中軽井沢地区模型(全体俯瞰)

4) 検討経緯

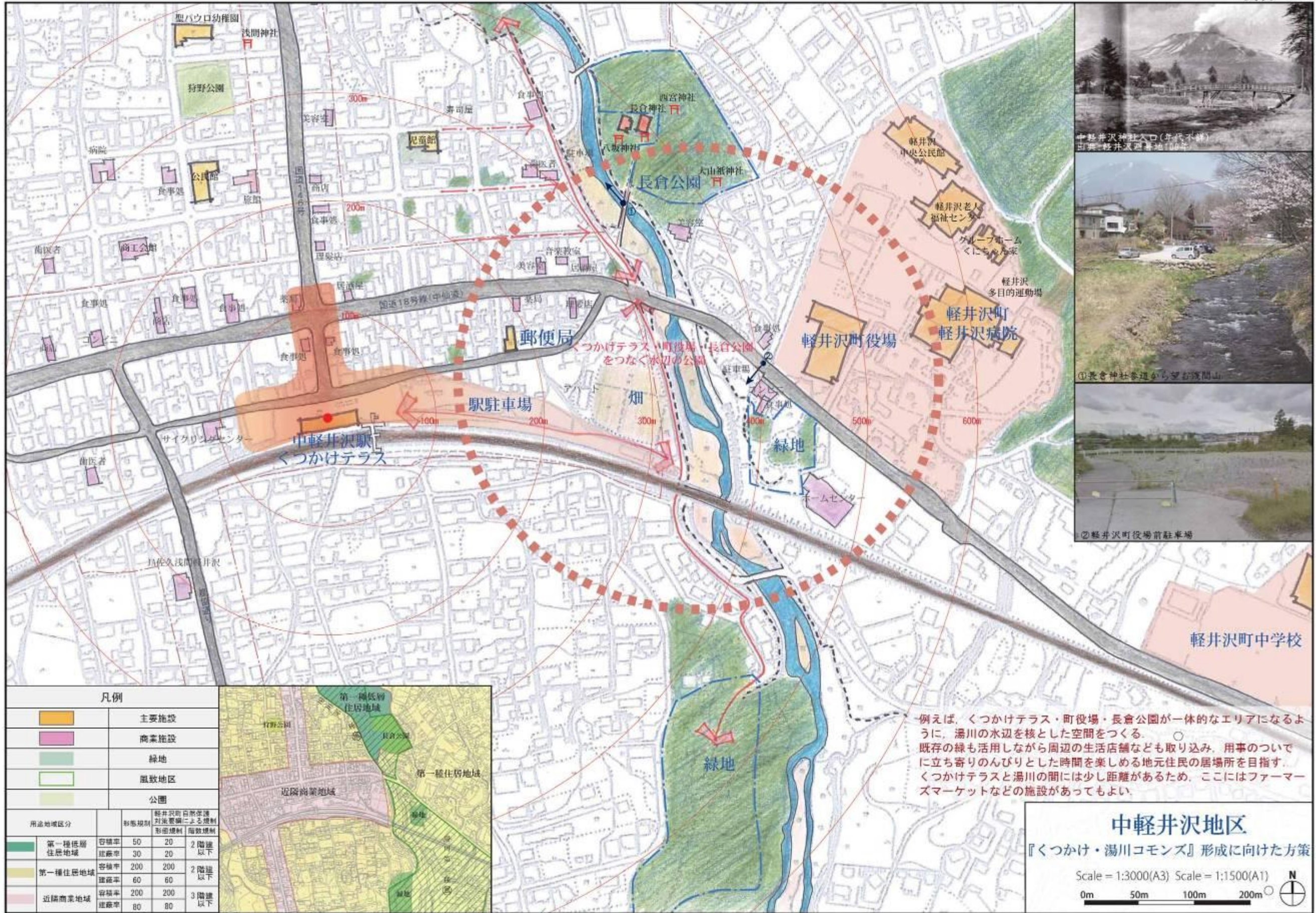
中軽井沢地区のエリアデザインに関する検討経緯を以下に示す。

なお、下記では全会議内容を羅列するのではなく、計画案が類似している会の内容をまとめて記述する。

(1) 第7回軽井沢未来構想会議 平成25年12月24日

下記のエリアデザインの基本方針について、確認を行った。

- ・くっかけテラス・町役場・長倉公園が一体的なエリアになるように、湯川の水辺を核とした空間を形成する。
- ・既存の緑も活用しながら周辺の生活店舗なども取り込み、用事のついでに立ち寄り、のんびりとした時間を楽しめる地元住民の居場所を目指す。
- ・くっかけテラスと湯川の間には少し距離があるため、ここにはファーマーズマーケットなどの施設を配置することを検討する。



第7回未来構想会議（平成25年12月24日時点）中軽井沢地区「くつかけ・湯川 commons」形成に向けた方策

(2)第 10 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 3 月 24 日

①検討内容

下記のエリアデザインの基本方針について、確認を行った。

- ・湯川を地区の中心軸に位置づけ、川沿いの空間資源をつないでいく。役場周辺のシビックセンターエリアと駅・沓掛テラス周辺を、核となる場所として設定する。
- ・エリアが広域にわたるため、「星野リゾート～長倉公園区間」と「長倉公園～軽井沢バイパス区間」に分けて具体的なデザイン検討を進める。

A：星野リゾート～長倉公園区間の方針

- ・国道146号沿いに歩行者・自転車パークウェイ、左岸側の一部区間に遊歩道を設けることで、中心部から星野リゾートまでのルートを確認する。往復で異なる道を通れるようにすることで、商店街と自然地の両方を楽しめる空間を目指す。
- ・中山道と国道146号の交差部周辺では、湯川側にも人が流れるようなデザインを施し、点在する店舗への回遊性を高める。

B：長倉公園～軽井沢バイパス区間の方針

- ・湯川ふるさと公園の三つの広場（休憩広場、芝生・運動広場、芝生広場）を核に、それぞれの場所の特性に応じた空間デザインを目指す。
- ・それらの場所を歩行自転車パークウェイなどでつなぎ、一体的な空間を目指す。とくに信濃鉄道と長野新幹線の間は、軽井沢の自然を楽しめるようなデザインと活用方法を検討する。

C：シビックセンターと駅・沓掛テラス周辺の計画・デザイン方針

- ・シビックセンターと駅・沓掛テラスが一体的になるように、湯川沿いの休憩広場を核とする親水空間を目指すとともに、『文化風土アカデミー拠点』を設ける。また構想にあたっては、シビックセンターの将来構想も含めて検討する。
- ・また歩道橋の設置も含め、シビックセンターから駅までスムーズに歩けるようなルートの検討をおこなう。同時に、駅前駐車場や畑地の活用方法についても検討する。
- ・信濃鉄道と長野新幹線の間には木道が整備されているものの、樹林は荒れ、川も見えない状態である。そのためここに湯川からの細流を引き込み、湿原の草花や樹木を楽しみながら歩ける遊歩道空間をしつらえる。「湿地百花園」を目指し、フォーラムと連動した管理方法も検討する。
- ・運動公園周辺は、既存施設に加え、「感性農園」や「野草フラワーアート」などを検討する。
- ・バイパス沿いの芝生広場は、バイパス利用者の目に触れる場所であり、ここに軽井沢の花を集めた「ふるさと百花草原」、「郷土草原」などを検討する。

②会議の意見の概要

- ・風越の植物園は、中軽井沢に移して集結させてはどうか

1. 地区の特徴と課題、エリアデザインの方向性

中軽井沢広域地形図 (S=1:8000)



第10回未来構想会議（平成26年3月24日時点）中軽井沢地区エリアデザイン検討案

2. 長倉公園～軽井沢バイパス区間のデザイン方針



第 10 回未来構想会議（平成 26 年 3 月 24 日時点）中軽井沢地区エリアデザイン検討案

3. 軽井沢風土文化アカデミー拠点エリアの現況と方針

■現況の特徴や課題など

- 1) 中軽井沢駅から湯川までの距離は 250m 程度であるが、地形の高低差が 5 m 程度あり、中間に駐車場やアパートがあることで、イメージ上の距離が大きく感じられる（写真1）。
- 2) 休憩広場は川との高低差が 3 m 程度と小さいものの、水辺に降りるのは難しい空間になっている。しかし、この場所は、浅間山と湯川を同時に眺めることができる点、シビックセンターに隣接している点で、非常に魅力的な場所である。（写真2）

■デザインの検討方針

- 1) シビックセンターと駅・寄橋テラス、長倉公園が一体的になるような、湯川沿いの休憩広場を核とする「文化風土アカデミー拠点」づくりを目指す。
- 2) 具体的には、休憩広場周辺に拠点施設を配置し、浅間山と湯川に開いた水辺空間を目指す。また歩道橋の設置も含め、シビックセンターから駅までスムーズに歩けるようなルートの検討をおこなう。同時に、駅前駐車場や畑地の活用方法についても検討する。
- 3) シビックセンターの各施設が老朽化していることを踏まえ、その将来構想についても検討に含める。
- 4) デザイン検討にあたっては、既存商店街との連携、用地取得の可能性、河川堤防道路、拠点施設の規模や内容なども考慮しながら進める。拠点施設は、まず中央公民館の代替機能から始めることも考慮する。



商店街と湯川がつながるような
街路及び水辺のデザインを検討
する。

駅から駅前駐車場・畑地に賑わいが広
がるような空間を目指す。発地のファー
マーズマーケットの出張所のようなあ
りかたも候補に入りたい。

写真1：右岸堤防から駅方向を望む、建物はアパート



写真2：右岸堤防から休憩広場を望む



(3)第 11 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 4 月 21 日

①検討内容

下記のエリアデザインの基本方針について、確認を行った。

- ・前回の未来構想会議にて提示した内容を踏まえ、中軽井沢エリアデザインの核となる空間のデザイン案を提示。
- ・湯川の左岸の公園敷地等を活用して、浅間山に対峙するように、22世紀風土フォーラムの拠点となる建築のボリュームを置く。建築と合わせてテラスを張り出し、軽井沢駅方面とは歩道橋により接続する。

②会議の意見の概要

会議内にてあがった意見の要旨を示す。

- ・くっつけテラスを中心としたテコ入れが必要ではないか。
- ・中心市街地活性化の課題に触れる必要がある。
- ・街中に残るくっつけ用水を活用することはできないか。



第11回未来構想会議（平成26年4月21日時点）中軽井沢地区エリアデザイン検討案

(4)第 11 回～14 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 5 月 7 日～5 月 26 日

①検討内容

中軽井沢のエリアデザインについて、下記のように検討を進めた。

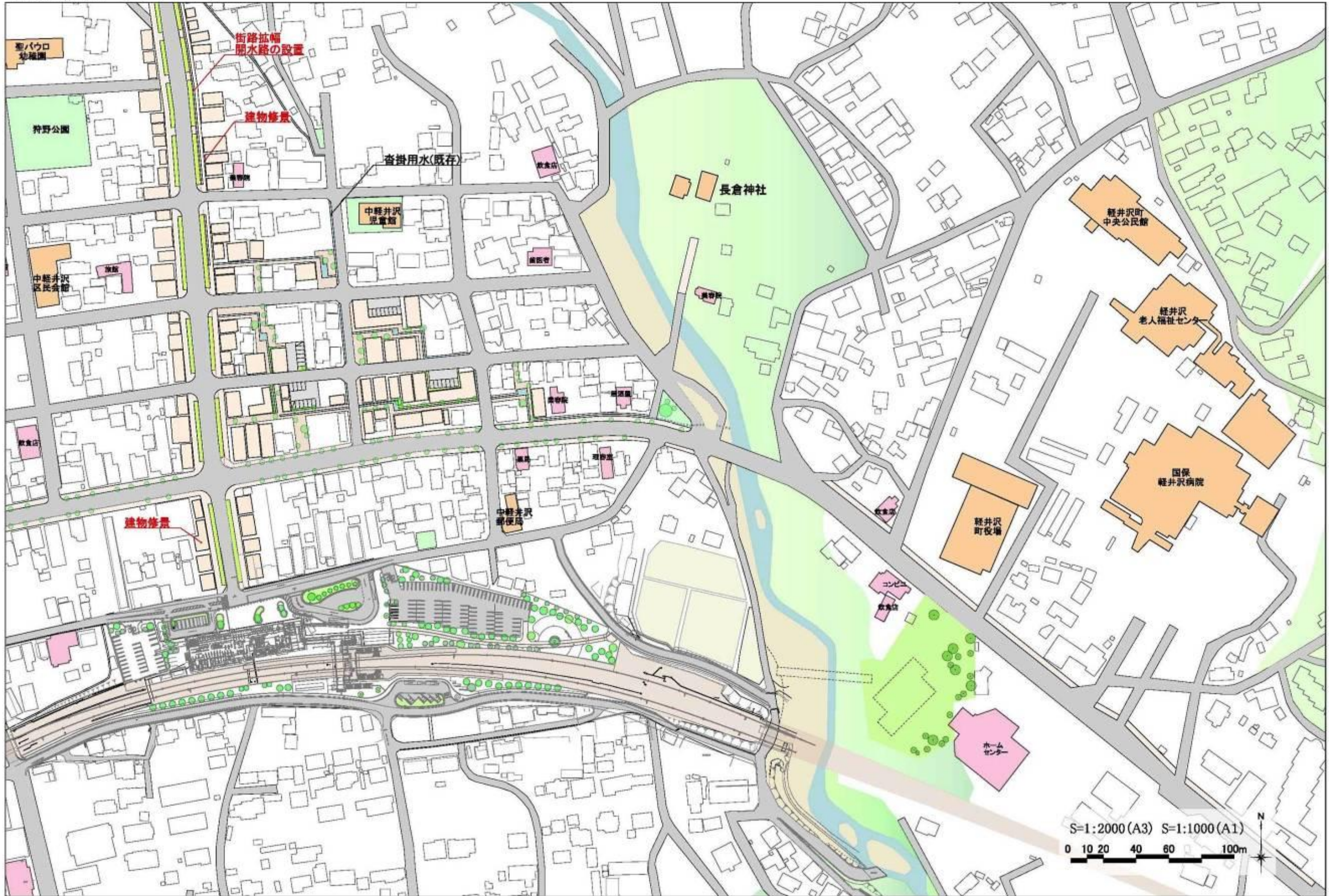
- ・くっかけ用水を活かし、かつ新たに湯川から水路を引き込む。溜り場を設けながら、街中に水路網を張り巡らせ、歩いて楽しめる住宅地・商店街を形成する。適宜駐車場を配備し、利用しやすい商店街に設える。
- ・くっかけテラスから北側に向かって伸びる県道を拡幅し、くっかけテラスと、湯川上流の商業エリアとの連携を強化する。現在は、狭い歩道幅員が続いているが、自転車道、植栽帯も備えた街路へと改修する。

②会議の意見の概要

会議内にてあがった意見の要旨を示す。

- ・植栽帯に樹木を配置すると見通しが悪くなるので、芝生のみとするのがよい。(5/7 第 12 回未来構想会議)
- ・くっかけテラス内にあるチャレンジショップを街中に持っていき、風土文化アカデミーの拠点をくっかけテラスに入れる事も考えられる。(5/26 第 13 回未来構想会議)
- ・今回のエリアデザインでは、現在ある都市計画(軽井沢町長期振興計画)とは違う事を前提とし、理想像を描く。しかし、場所や表現が具体的になれば、反対意見が出てくる。表現方法には工夫が必要である。(5/26 第 13 回未来構想会議)
- ・くっかけテラス前の街路は、くっかけテラスの全貌が見えるように拡幅する。(5/26 第 13 回未来構想会議)
- ・20～30 年後には建物の劣化により取り壊しになる建物が増える。思い切った提案を検討する。(5/26 第 13 回未来構想会議)

中軽井沢地区エリアデザイン



第14回未来構想会議（平成26年5月26日時点）中軽井沢地区エリアデザイン

(5)第 15 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 6 月 12 日

①検討内容

中軽井沢のエリアデザインについて、下記のように検討を進めた。

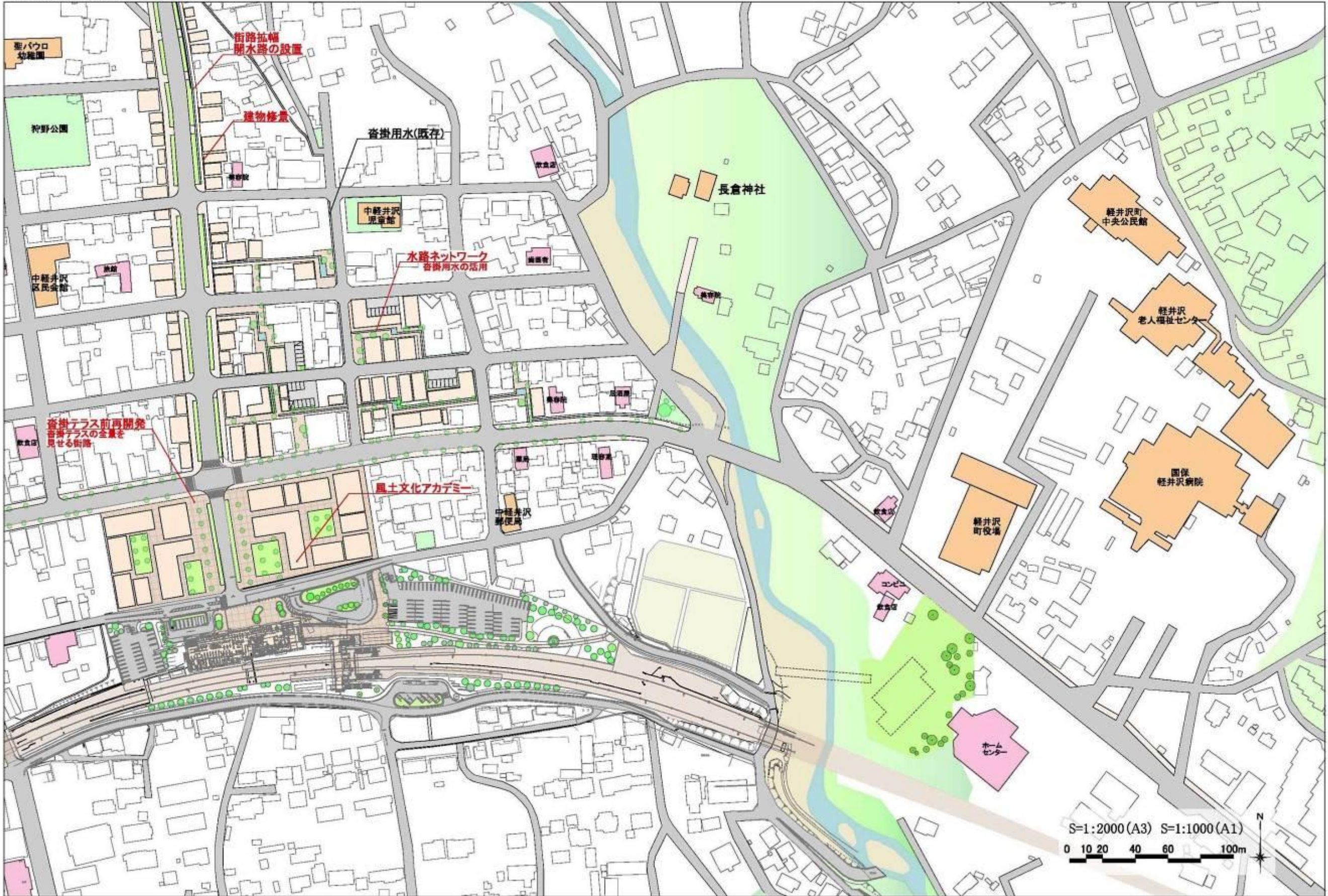
- ・くっかけテラスの全貌を切り取るように、街路を拡幅する。くっかけテラス前の街区は再開発をかけ、建物のボリュームをまとめると共に、くっかけテラスに向かって開く広場を設ける。
- ・新設する建物の一角に、風土文化アカデミーの拠点を設ける。

②会議の意見の概要

会議内にてあがった意見の要旨を示す。

- ・役場の窓口機能を駅前に持つてくることはできないか。生活に必要な機能を持つてくることでにぎわいをもたらしたい。
- ・駅前通りの建物はガルバリウムのファサードが並ぶイメージ

中軽井沢地区エリアデザイン



第 15 回未来構想会議（平成 26 年 6 月 12 日時点）中軽井沢地区エリアデザイン検討案

(6)第 16 回～18 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 6 月 23 日～7 月 7 日

①検討内容

中軽井沢のエリアデザインについて、下記のように検討を進めた。

- ・にぎわいテラス前に、マーケット等を開催できる歩行者広場を確保するための検討を進め、2 案のデザイン案を作成。
- ・ A 案：駅舎と平行して走る道路を、駅前通りに接続することで、駅前の歩行者空間を広く確保し、かつ駅から駅前の交差点までを、歩行者広場に仕立て上げる。
- ・ B 案：駅前通りの車両交通を完全に排除し、ロータリーと国道 18 号とを、拡幅する既存の区画街路により接続する。交通処理機能は低下するが、歩行者のための大きな広場を確保することが出来る。
- ・ 両案とも、国道を通過する LRT の停車場(離合点)を駅前の交差点に設ける。くっかけテラス前に設けた広場を介して、既存の中軽井沢駅と LRT とが接続される。

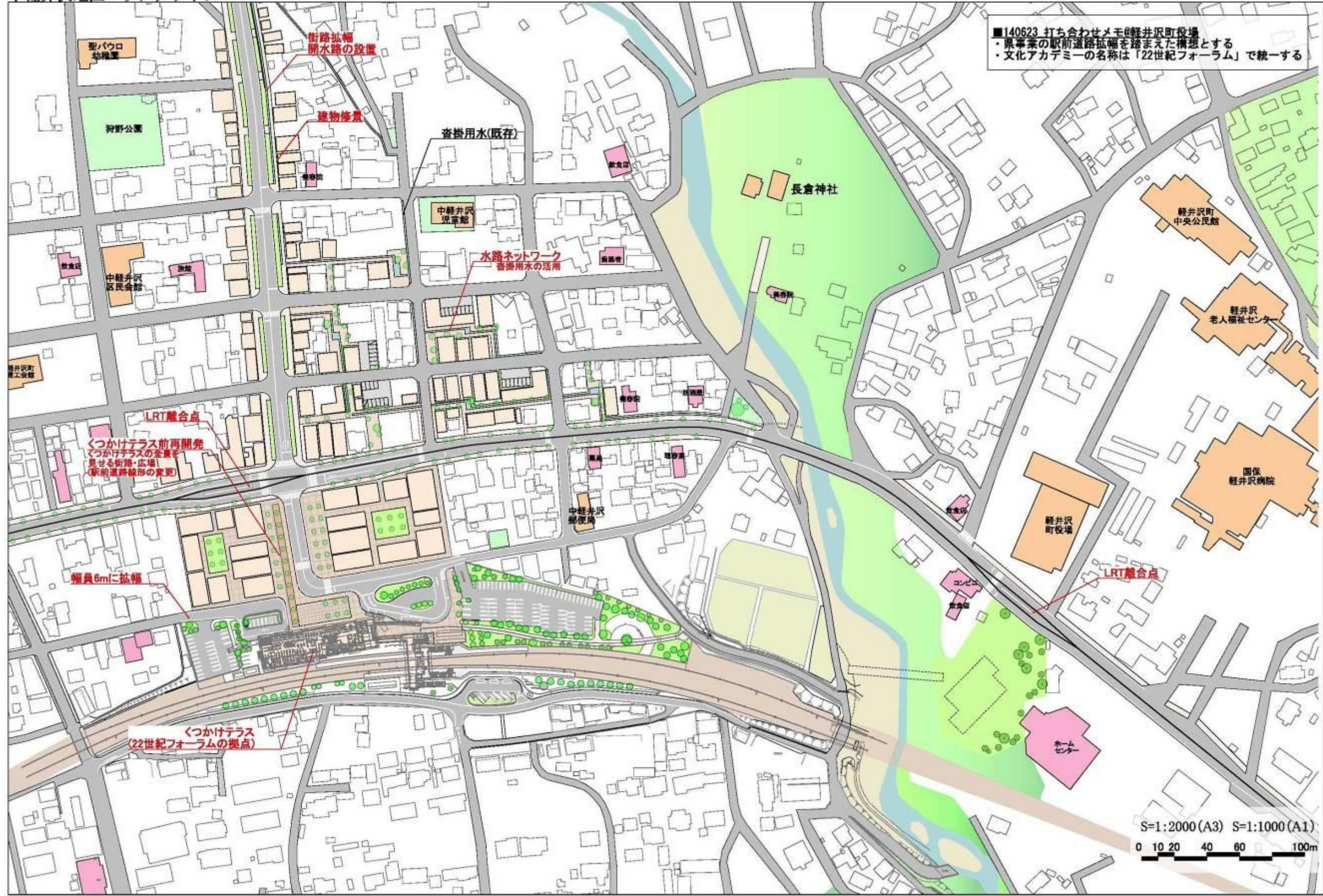
②会議の意見の概要

会議内にてあがった意見の要旨を示す。

- ・くっかけテラスの全景を見せる、人間中心の駅前広場の改変について、インパクトを与えるためには良い。しかし、現在、県で検討されている県道拡張整備の案が潰れない様に配慮したデザインとする。(6/23 第 16 回未来構想会議)

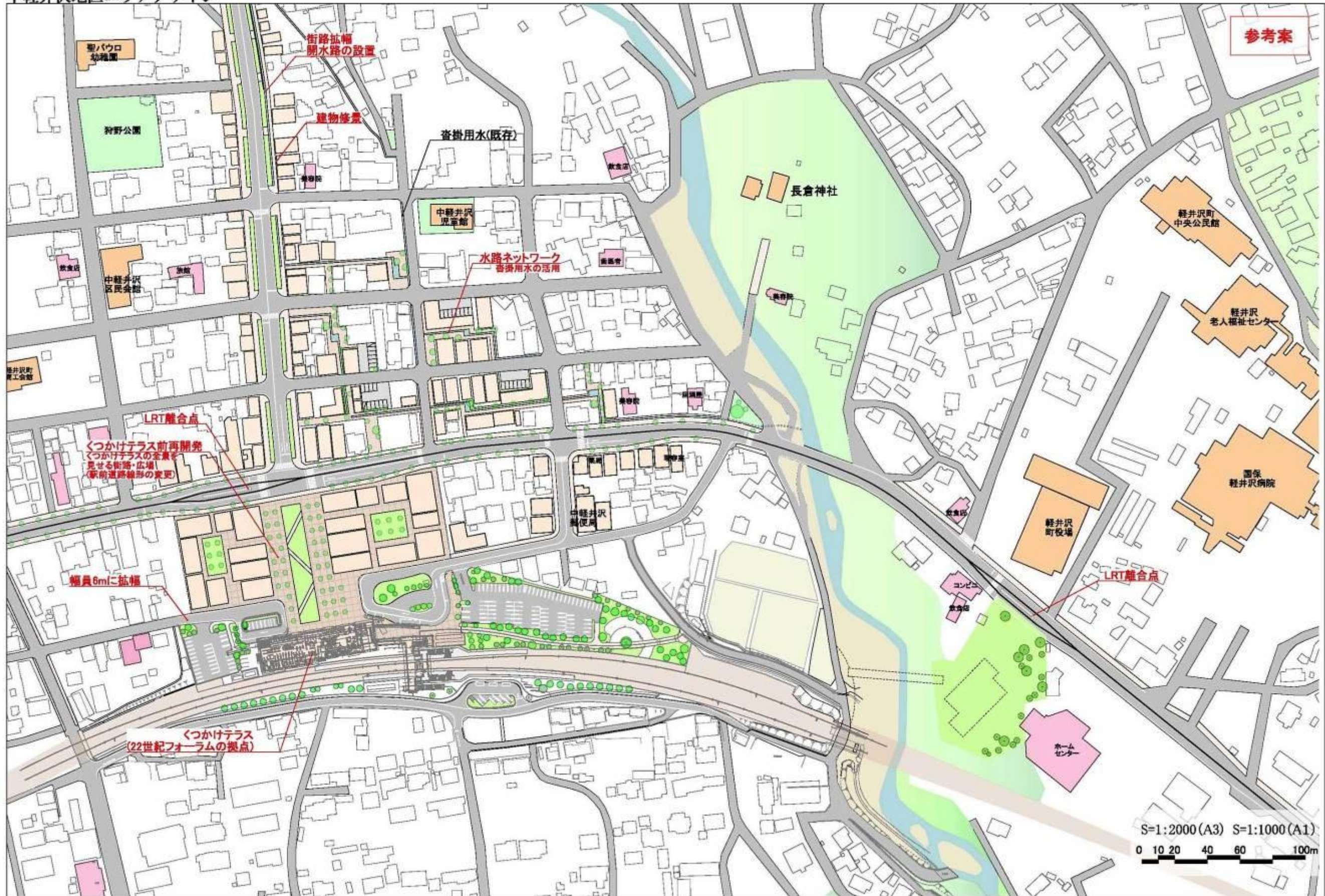
→県道拡張整備に配慮した、A 案で検討を進める。

中軽井沢地区エリアデザイン



第 18 回未来構想会議 (平成 26 年 7 月 7 日時点) 中軽井沢地区エリアデザインA案

中軽井沢地区エリアデザイン



第18回未来構想会議（平成26年7月7日時点）中軽井沢地区エリアデザインB案

(7)第 19 回～22 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 7 月 25 日～9 月 22 日

①検討内容

中軽井沢のエリアデザインについて、下記のように検討を進めた。

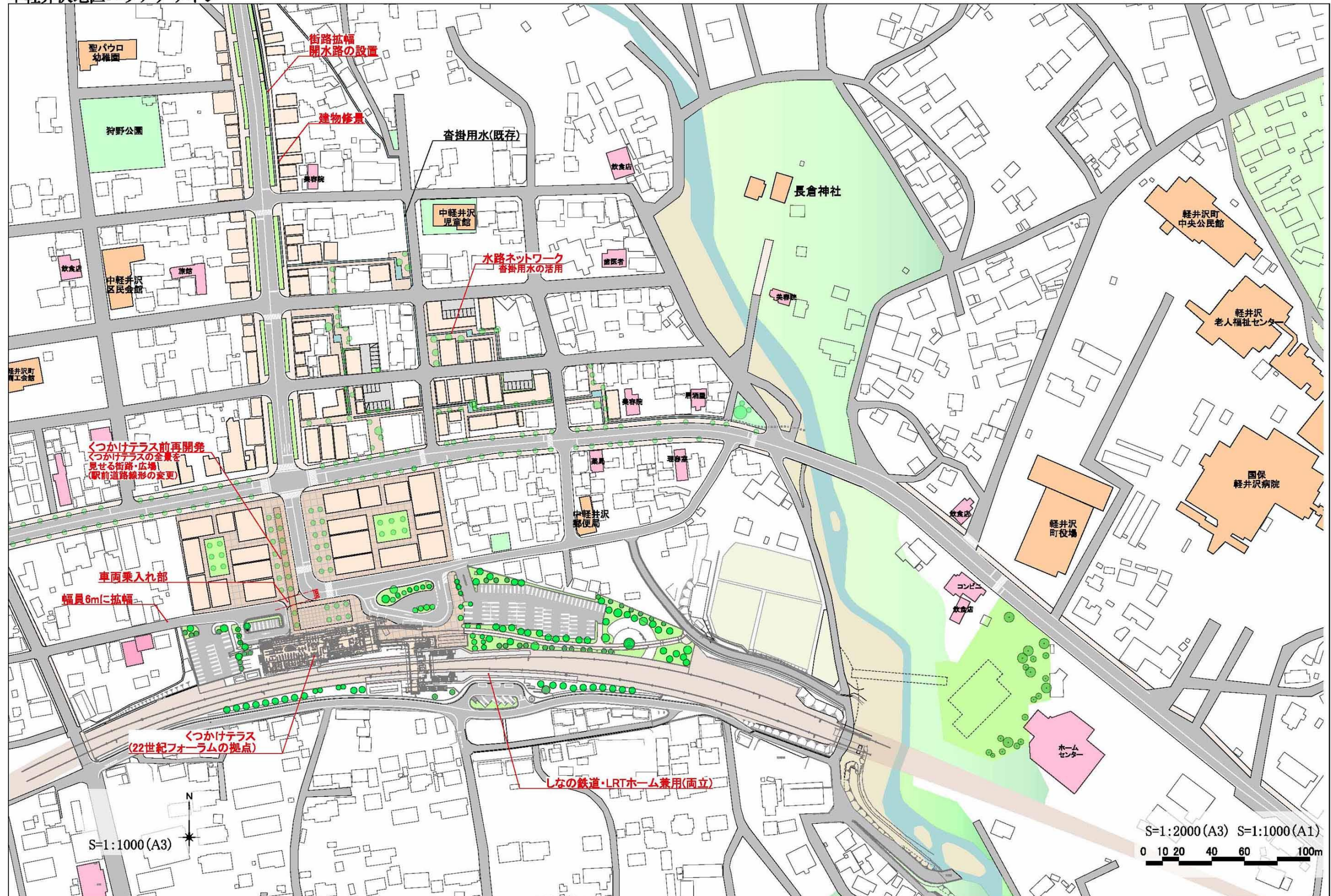
- ・ 駅前の東西方向の車両動線を損なわないよう、駅前の T 字交差点を L 字交差点にする代わりに、東西を接続する車両乗り入れ部を設ける。
- ・ LRT は国道を通すのではなく、信濃鉄道の線路敷を利用することとする。

②会議の意見の概要

会議内にてあがった意見の要旨を示す。

- ・ 駅前の T 字交差点を L 字にする代わりに、乗入れ部を設ける。(7/25 第 19 回未来構想会議)
- ・ LRT としなの鉄道は両立することを記載する。(8/11 第 20 回未来構想会議)

中軽井沢地区エリアデザイン



第22回未来構想会議（平成26年9月22日時点）中軽井沢地区エリアデザイン

(8)第 24 回軽井沢未来構想会議 平成 26 年 10 月 22 日

①検討内容

中軽井沢のエリアデザインイメージのスケッチについて、下記のように修正した。

- ・ 駅前の通りに自転車専用道を設け、ライトブルーのカラー舗装とする。
- ・ 照明柱にフラワーバケットなどをつるすバナーを設置することとした。



スケッチ修正前



スケッチ修正後